学校番号	３２６

令和５年度　理科

教科	理科	科目	物理	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	「改訂版　物理」（数研出版）						
副教材等	「フォローアップドリル物理　力と運動・熱と気体」（数研出版） 「フォローアップドリル物理　波」（数研出版） 「フォローアップドリル物理　電気と磁気」（数研出版） 「フォローアップドリル物理　原子」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業に積極的に取り組む。

2　学習の到達目標

物理基礎で扱う物理現象に対して、正しい理解を持ち、その確認を効率的に実行できる。また、その理解を分かりやすく伝えることが出来る。さらに、より広く深い理解を得ようとしている。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・授業のどの部分が大事かを確認できている。 ・授業の内容について、より広く、深く知りたいという意識がある。	・授業中の発問に関して、適切な答えを述べられている。 ・分かりやすい方法で自分の考え方を伝えられている。	・実験を手早く済ませることが出来る。 ・実験器具を正しく使うことが出来る。	・学習した内容を正しく覚えられている。 ・公式や法則を現象に合わせて使うことが出来る。
評価方法	・授業態度 ・アンケート	・発問	・机間巡視 ・レポート	・テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期中間	力学	・平面内の運動 ・剛体	○ ○	○ ○	 ○	○ ○	a:平面内の運動や剛体のどの部分が大事かを確認できている。授業の内容について、より広く、深く知りたいという意識がある。 b: 平面内の運動や剛体の発問に関して、適切な答えを述べられている。分かりやすい方法で自分の考え方を伝えられている。 c: 剛体の実験を手早く済ませることが出来る。実験器具を正しく使うことが出来る。 d: 平面内の運動や剛体の内容を正しく覚えられている。公式や法則を現象に合わせて使うことが出来る。	・授業態度 ・アンケート ・発問 ・机間巡視 ・レポート ・テスト
1学期期末	力学・熱	・運動量の保存 ・円運動と万有引力	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a:運動量や円運動などのどの部分が大事かを確認できている。授業の内容について、より広く、深く知りたいという意識がある。 b: 運動量や円運動などの発問に関して、適切な答えを述べられている。分かりやすい方法で自分の考え方を伝えられている。 c: 運動量や円運動の実験を手早く済ませることが出来る。実験器具を正しく使うことが出来る。 d: 運動量や円運動などの内容を正しく覚えられている。公式や法則を現象に合わせて使うことが出来る。	・授業態度 ・アンケート ・発問 ・机間巡視 ・レポート ・テスト

2学期中間	熱・波動	・円運動と万有引力 ・気体のエネルギーと状態変化	○ ○	○ ○	 ○	○ ○	a:万有引力や気体などのどの部分が大事かを確認できている。授業の内容について、より広く、深く知りたいという意識がある。 b: 万有引力や気体などの発問に関して、適切な答えを述べられている。分かりやすい方法で自分の考え方を伝えられている。 c: 気体の実験を手早く済ませることが出来る。実験器具を正しく使うことが出来る。 d: 万有引力や気体などの内容を正しく覚えられている。公式や法則を現象に合わせて使うことが出来る。	・授業態度 ・アンケート ・発問 ・机間巡視 ・レポート ・テスト
2学期期末	電磁気	・電場 ・電流 ・電流と磁場 ・電磁誘導と電磁波	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	a:電場や磁場などのどの部分が大事かを確認できている。授業の内容について、より広く、深く知りたいという意識がある。 b: 電場や磁場などの発問に関して、適切な答えを述べられている。分かりやすい方法で自分の考え方を伝えられている。 d: 電場や磁場などの内容を正しく覚えられている。公式や法則を現象に合わせて使うことが出来る。	・授業態度 ・アンケート ・発問 ・テスト

3学期	原子	・電子と光 ・原子と原子核	○ ○	○ ○	○	○ ○	a:光や原子などのどの部分が大事かを確認できている。授業の内容について、より広く、深く知りたいという意識がある。 b: 光や原子などの発問に関して、適切な答えを述べられている。分かりやすい方法で自分の考え方を伝えられている。 c: 陰極線の実験を手早く済ませることが出来る。実験器具を正しく使うことが出来る。 d: 光や原子などの内容を正しく覚えられている。公式や法則を現象に合わせて使うことが出来る。	・授業態度 ・アンケート ・発問 ・机間巡視 ・レポート ・テスト

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:観察・実験の技能　d:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。